

登壇者プロフィール



柳田耕一（やなぎだこういち）：1950年熊本市生まれ。東京農大時代に水俣病患者支援運動に参加し、1973年に東京農大を中退し水俣市へ移り住む。日本初の市民運動型財団・水俣病センター相思社の設立運動に参加し、1974年の設立と同時に初代の事務局長に就任。以来、水俣現地に於いて、未確定の水俣病患者掘り起こし運動や裁判支援に関わる他、有機農業運動やフリースクール運動を立ち上げる。現在は複数のNGOに参加して、タンザニア、ベトナム、モンゴルでの環境問題を通じた国際交流にコミットし、これまで100回以上に渡り、植林や環境問題調査目的で多くの国を訪問しNGOや市民と交流し、ミナマタの経験を伝える活動を行ってきている。現職：特定非営利活動法人 地球緑化の会 副会長兼事務局長、モンゴル国ダルハン農業大学名誉教授、株式会社ティエラコム監査役



魚住道郎（うおずみみちお）：1950年生まれ、東京農業大学卒業。学生時代水俣病問題に関わり、1973年、日本の有機農業運動に重要な役割を果たした「たまごの会農場」建設に参画、同農場従事を経て、1980年、茨城県石岡市で専業農家として独立。平飼い養鶏600羽、畑3.2ha、水田15aを経営する。現職：有機農家、日本有機農業研究会副理事長、有機農業推進協会理事、茨城県有機農業推進フォーラム会長。著書に『有機農業ハンドブック』『「有機農業公園」をつくろう』『食と農の原点有機農業から未来へ』（以上、共著）、「解説有機農業のバイブル」『農業聖典』など。各地で講師活動。第17回環境保全型農業推進コンクール大賞（農林水産大臣賞）（有機農業部門、2013年2月）受賞。



木本一花（きもといつか）：1985年神奈川県生まれ、慶應義塾大学文学部卒。IT企業、移住支援NPO、フリーライター等を経て、株式会社マイファーム入社。福井県坂井市三国町へ単身赴任し、養鶏業を起点に、農園レストラン「アグリツーリズム Nora」や農産加工事業の立ち上げを手がけた。現在は、週末農業学校「アグリイノベーション大学校」の事業統括を務め、オーガニック・エコ農業や中山間地での農業、都市農業など、次世代に続く新たな農業モデルの確立に取り組む。現職：株式会社マイファーム 執行役員 アグリイノベーション大学校事業部長



徳江倫明（とくえみちあき）：1951年熊本県水俣市生まれ。76年早稲田大学卒業、㈱ダイエー入社。食品公害や環境問題への関心から、78年山梨県韮崎にて農場設立、有機農業と豚の完全放牧に挑戦。同年有機農産物専門流通団体「大地を守る会」にも参画し、80年から大地を守る会の活動に専念。88年には新しい事業として、日本リサイクル運動市民の会と提携し有機農産物の宅配事業「らでいっしゅぼーや」を興す。その後、97年日本初のオーガニックスーパーの開発や99年有機JAS認証機関「アフアス認証センター」の設立を手がける。現職：一社フードトラストプロジェクト代表理事、一社生きもの認証推進協会代表理事、一社オーガニックフォーラムジャパン会長、一社CSR経営者フォーラム会長などを運営しつつ、生産者と販売者をコーディネートする企画・卸会社

「“東京産直オフィス” エフティピーエス株式会社」を経営。著書 『農業こそ21世紀の環境ビジネスだ』
1999年『危ないものをつくりすぎた—食品安全は可能か—』2004年など